

伴走支援による観光情報の一元化とDX自走化モデルの構築

一般社団法人信州千曲観光局  長野県千曲市  観光協会等

事業区分：



専門人材による伴走支援

課題の背景

ITやデジタルに詳しい人材が不足しシステム管理を外部委託に依存していたため、観光情報が分散して一元管理されず業務効率が低下していた。

専門人材による伴走支援

システム統合とデータ活用支援 (WordPress、ChatGPTなど)

外部サービス連携を見据えたAPI拡張設計やデータベース構造の再設計を支援した。また、CMSやアプリの管理画面操作のレクチャー、生成AIを活用したデータ分析手法の助言など、システム運用の技術的な指導を行った。

UI/UX刷新と情報設計支援 (WordPress、Googleアナリティクス)

UI/UXガイドラインの策定やタグ分類による情報構造の再構築を支援した。さらに、SEOに配慮した導線設計やアクセス解析ツールの活用法、広義のデザイン概念やマネーの講義など、Webサイト運用に関する実践的な指導を行った。



伴走支援による効果

- バックエンドのDB再設計やAPI拡張設計の知見を活かし、155件の施設情報を一元化する基盤を構築。情報更新の迅速化とシステム利用料の削減を実現した。
- フロントエンド技術 (UI/UX設計やSEO対策) の移管によりシステムを内製化。数千万円の委託費削減と、自局内で迅速にサイト改善できる体制を確立した。
- 専門人材からの生成AIやGA4の活用助言により、低コストなレポート作成手法を確立。事業者への定期配信を開始し、データに基づく迅速な地域連携を強化した。

事業者の声

ツールやシステムを導入するだけでなく、まずは分散していた情報や業務の全体設計を整理することが不可欠でした。外部委託に依存せず、自分たちで運用ルールを決め、AIを活用して内製化することで、コストを抑えながら持続可能な基盤を作ることができました。地域の事業者さんにデジタル化へ協力してもらうには、日頃からの顔の見える関係性が非常に重要でした。足繁く通うことで距離を縮めていたからこそ、取材やデータ提供にも快く応じてもらえ、双方向の連携がスムーズに進んだと感じています。

課題

観光情報が分散し、体系化されておらず、外部委託による運用のためコストや迅速性に課題があった。また、職員や地域事業者にデジタル知識が不足しており、データに基づくマーケティングが困難であった。

期待する効果

情報一元化により業務が効率化され、最新情報の発信が可能になることが期待される。また、データ分析に基づくマーケティング施策の高度化や、内製化によるコスト削減、持続可能なDX自走体制の確立も期待される。

